

チャのナガチャコガネ

1 形態と生態

- (1)成虫は体長 11～14 mmで、体色が赤茶色のコガネムシです。茶園周辺のメヒシバなどの雑草を食します。雌の触角は雄よりも短く、雌雄の判別に利用します。
- (2)卵は茶園の土中に産み付けられ、2週間程度でふ化します。幼虫は頭部と胸脚は黄褐色、胸腹部は白色でカブトムシの幼虫を小さくした形態です。ふ化～2齢幼虫までは主に腐植質を食べて成長しますが、3齢幼虫以後は主に茶樹の根を食害して成長します。
- (3)ふ化後、幼虫は細根の多い深さ 15cm 程度の所に最も多く分布していますが、10 月以降、3齢幼虫になると茶樹の雨落ち部の地表から 10cm 程度までの深さの比較的浅い所に多く生息します。
- (4)幼虫で越冬し冬期も活発に摂食活動を行います。



写真1 ナガチャコガネ成虫 雄(左)、雌

2 被害の様子

- (1)幼虫が茶樹の根を食害するため、一番茶芽の生育が止まります。周辺の健全茶園より新芽の生育が遅れ、発生に気づきます。
- (2)幼虫による根部の食害が甚だしい場合は、収穫皆無となることもあります。
- (3)被害園でも二番茶期には地下部が回復するため、新芽の生育停止は見られなくなります。
- (4)以前と比べて本県では被害発生が少なくなりましたが、再び被害が増えてきた茶産地もあります。



写真2 冬期も活動する3齢幼虫



写真3 卵(左)と蛹(右)



写真4 新芽の止まった被害部(手前)と健全部(奥)



写真5 被害部の雨落ち部に多発した幼虫
5月上旬調査。10 頭程度確認される。

3 発生について

(1)成虫は6月上～中旬に出現し始めます。6月末～7月初旬にピークとなり、8月中旬には終息します。

(2)7～8月にふ化幼虫が現れ、10～11月に3齢幼虫になります。翌年5月中～下旬に蛹となり、6月上旬に成虫が出現します。年1回の発生です。

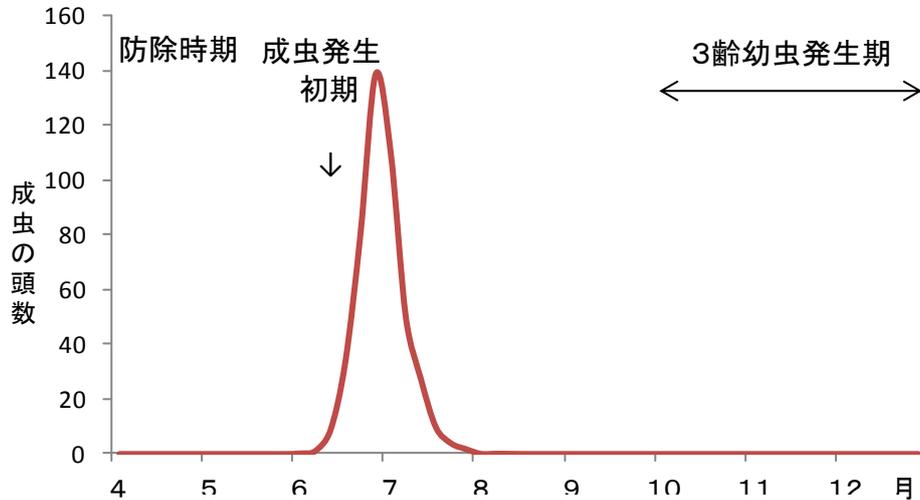


図1 埼玉県における成虫の発生消長と防除時期

4 防除時期と防除方法

(1)3齢幼虫発生時期である 10～12月にスコップによる掘りとり調査を行い、幼虫が1掘り(25×25×25cm)当たり6頭以上いる場合は、翌年の一番茶芽が生育停止する恐れがあるので、防除対策を実施します。

(2)3齢幼虫発生期に登録のある薬剤を土壌灌注します。なお、かん水チューブの散水面を地中に向けて使用すると薬液が土壌中によく浸透し、防除効果が高まります。冬期は地表面が凍結して散布効率が低下するため、防除は12月上旬までに実施します。

(3)幼虫に加害されて一番茶新芽の生育が悪かった茶園や、成虫の発生が多く確認される茶園では、6月の成虫発生初期に処理するタイプの登録薬剤(粒剤)を茶園の雨落ち部に土壌混和します。

(4)防除は被害発生部およびその周辺部に実施します。

薬剤防除を実施する場合は、

- 最終有効年月内の農薬を使用し、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を必ず確認してください。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- 農薬を散布する際は飛散しないよう対策を講じてください。

■ 発行 平成28年2月 埼玉県農産物安全課、一般社団法人埼玉県植物防疫協会

■ 問合せ先(原稿執筆)

埼玉県茶業研究所栽培担当 TEL04-2936-1351、埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661



©埼玉県 2005

彩の国埼玉県